

# 七尾市農業委員会だより

2024  
新年

令和6年1月1日発行／発行 七尾市農業委員会／編集 農業委員会だより編集委員会  
TEL 0767 (53) 8440／FAX 0767 (52) 7765／E-mail:nougyouinkai@city.nanao.lg.jp

No.70



(七尾湾の朝)

写真：中野 久明

法小松坂菱岡西橋北佐黑酒平山大萩山	委員	寺	会長職務代理者	坂	会長
京柳田本野崎野本谷木土井山岸濱原本		井	英	井	助
廣宗友良仁	良俊幸政	洋邦	俊正		
照久也正志康猛子一造徳稔也夫昭彦秋			雄		光

農業委員

事務局職員一同	室村屋哲	村田重	西瀬川大	細谷明宗	中島与之	田浦宗満	円道竜貢	石坂純太	山田修也	福田純	長田大隆	山田信秀	岩見良一	伊豆田保	飯田義明	室塚利信	道下久雄	竹山外博	白野久志	山野外博
---------	------	-----	------	------	------	------	------	------	------	-----	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------

農地利用最適化推進委員

令和六年元旦 七尾市農業委員会

明けまして  
おめでとーうございます

# 新年あけましておめでとぅございませう



七尾市農業委員会

会長 坂井 助 光

皆様方には輝かしい新年をお迎えの事とお慶び申し上げます。昨年を振り返りますと、日本各地で自然災害や猛暑を越して酷暑の日が多く気象変動の激しい年でありました。そのような厳しい条件下、皆様には遊休農地の調査を始め多くの農業委員会業務にご支援とご協力を頂きましてありがとうございます。

また、コロナ禍の影響が少しずつ収まり、経済が以前のように動き出した一方で、ウクライナとロシア問題などで原油価格が高騰し、生活関連商品を始め、生産資材や肥料・飼料穀物など大幅な価格高騰が続く中、生産者の再生産意欲の確保が大きな課題となっております。我が国においては、農業基本法の見直しが行われ、今後、食料自給率問題を大きく考えさせられる年になりそうです。

一方では相続未登記農地が全農地面積の約2割もあることから、所有者不明の農地の発生防止と利用の円滑化の両面から民法や不動産登記法の改正が行われました。これにより、所有者不明、管理不全土地等の財産管理制度の見直しが令和5年4月1日に行われ、相続登記の申請義務化が令和6年4月1日に施行されます。また、住所等の変更登記の申請義務化も令和8年5月までに行われることが決まっております。

市においては地域計画策定が進められ、現在の「人・農地プラン」をより深め、10年後の地域農業の設計図であり、目標であります。これは地域農業の将来の在り方や将来の農業を担う者は誰なのかを地域で話し合い、目標地図に示すものであります。この地域計画策定も今年度が最後の年でありますので地域の皆様方で検討を重ね策定をお願いいたします。

当農業委員会といたしましても、担い手等後継者育成、女性の登用、遊休農地解消等々多くの問題・課題を抱えながら地域の皆様方と一体となって取り組む所存であります。

他方、トキの放鳥についても地域全体で取り組む大きな課題であります。皆様の協力なくして成しえないものと思っております。農業委員会としても石川県や七尾市と協力して取り組んでいきたいと考えておりますので、皆様方のご支援とご協力をお願いいたします。結びにあたり、世界が平和であることと、大きな気象変動がないことを願うとともに、皆様方のご健勝ご多幸をご祈念申し上げます。

## 頑張ってます!

《part 47》

### 「53歳から10年以上」



磯貝 哲夫 さん  
(てつおのぶどう農園)

七尾市佐味町でブドウの栽培を手掛ける磯貝哲夫さん(66)は、53歳から趣味で始めたブドウの栽培をきっかけに56歳から1年間「いしかわ耕稼塾」で専門的な知識を得て、翌年から本格的に営農を始めました。

現在40aのビニールハウスで10種類の品種を育てています。もともと果物が好きだった磯貝さんは、ブドウは他の果物に比べて日持ちがする特性に魅力を感じて趣味から始めたそうです。

ブドウの栽培は4月のビニールハウス被覆作業からスタートし、花が咲きだす5月頃から種をなくしたり、実を大きくするためのジベレリン作業や袋掛け、追肥、病害虫予防の定期的な消毒作業など様々な作業を行って、



ようやく収穫を迎えました。例年、盆明けから始まる本格的な収穫作業は、今年は好天もあり、盆前から始めることができ、十分な甘さを持ったブドウは9月いっぱい販売を終えることができました。

自然災害による被害は農業を営む上では避けられず、昨年は大雪でビニールハウスが倒壊し、修復が大変だったそうです。

磯貝さんは「意外と七尾でブドウを作っていると知られていない。東湊地区以外の地区にも知ってもらい、是非一度食べてもらいたい。」と話しました。

磯貝さんのブドウは毎年、同市府中町の能登食祭市場や中能登町井田の「道の駅織姫の里なかの」とで販売しています。また、写真投稿アプリ「インスタグラム」の「てつおのぶどう農園」で情報を発信しています。

# 稲刈り体験

9月7日



中島小学校5年生27名は中島町地内の田んぼで、5月に田植えをした苗が収穫の時期を迎え、9月7日に山本正秋委員、地域住民、能登わかば女性部の協力の下、児童らは稲刈りに挑戦しました。鎌の使い方や稲の刈り取り方の手ほどきを受け、3・4束ほどを藁で結びました。最初は苦戦していた鎌の扱い方も次第に慣れ、作業は1時間足らずで終わりました。今年も雑草も少なかったため、昨年に比べて稲刈りもしやすく豊作だったそうです。刈り取られた稲は中島小学校内ではざかけをし、10日間ほど乾燥させました。



コロナの影響で延期が続いていた「感謝祭」は、今年が初の試みで、児童たちが主体となつて準備しました。11月21日に「感謝祭」が開催され、お世話になった山本正秋委員を迎えて感謝状とプレゼントの贈呈をはじめ、創作ダンスの披露、宝探しゲームなどを通して、これまでの感謝の気持ちを伝えました。児童は「山本さんに喜んでもらえてよかったです」「お米を作る大変さやお米の大切さがわかった」と語りました。

# 女性農業委員の活動

「時短調理による簡単で美味しいレシピの紹介」

10月7日(土)に橋本良子委員による料理教室が矢田郷地区コミュニティセンター調理室で行われ、共働きで忙しい中でも「簡単に美味しく、作れる地元の野菜を使ったレシピを紹介しました。」

今回23名の参加者が短い時間で2種類のおかずとデザートを作り、美味しく食べることができました。また、野菜の重さ当てクイズでは、目で見て触れて楽しく当てることができました。

最後に橋本良子委員は、女性農業委員の登用が少ない今、一人でも多くの女性農業委員を増やしていきたい、女性ならではの意見や声を組織に反映していきたいと話しました。



## 秋のおすすめ

料理時間  
10分

### ロメインレタスとえびのマヨソテー

#### 材料 (2人分)

ロメインレタス	6枚 (120g)
黄パプリカ	1/2個 (80g)
えび (小) 生・殻付き	6尾 (108g)
マヨネーズ	大さじ2 (30g)

#### 作り方

- ①ロメインレタスは長さ5cmに切る。黄パプリカは1cm幅の斜め切りにする。
- ②えびは殻をむいて背ワタを取る。
- ③フライパンにマヨネーズ大さじ1を入れて火にかけ、②を入れ炒める。
- ④火が通ったら、①と残りのマヨネーズを加え、さっと炒める。

栄養成分 (1人分)

エネルギー	169kcal
食塩相当量	0.6g
野菜量	100g



## 第61回石川県農業委員会大会

11月16日、加賀市文化会館で県内の農業委員並びに農地利用最適化推進委員が一堂に会し、石川県農業委員会大会が開催されました。

全国農業会議所の稲垣照哉専務理事から「農業委員会組織をめぐる情勢について」と題して、食料・農業・農村基本法の改正等について報告があった。また、地域計画の策定については、「人・農地プラン」と「地域計画」の違いや目標地図作成に向けての工程や取り組み方などの説明があり、農業委員の今後の活動に改めて参考になる講演でした。

大会では、農業政策に関する提案決議、「地域の農地を活かし、持続可能な農業・農村を創る全国運動」を推進するための申し合わせ決議、「情報提供活動」の一層の強化に関する申し合わせ決議の3択を採択されました。

当日は、永年勤続農業者等表彰が行われ、左記の方々が受賞されました。



### ○石川県知事感謝状

坂井 助光  
須崎 昭夫  
加地 俊隆

### ○石川県農業会議会長表彰

酒井 稔  
萩原 俊彦  
辻 茂典  
川上 伸



## 全国農業新聞

経営と暮らしに  
役立つ情報がいっぱい

を購読  
しましょう!

- ◆発行日 毎週金曜日
- ◆購読料 一カ月 700円 年額 8,400円

## 国が支える 安心が大きくなる 担い手積立年金

農業者年金 〔愛称〕

3つの要件を満たせばどなたでも加入できます!

- ◆加入資格
- 60歳未満
- 国民年金第1号被保険者
- 年間60日以上農業従事



税制面の優遇措置や終身年金で80歳までの保障付きなど様々なメリットがあります。  
お気軽にご相談ください。

## 編集後記



あけましておめでとうございます。  
昨年中は農業委員会だよりをご愛読いただき、ありがとうございました。

昨今、高齢化や担い手不足が言われていますが、兼業農家や多様な担い手、意欲のある若い就農者等をまき込みながら地域の未来が明るくなるよう農地を耕し、新しい人材を育てながら頑張ってくださいませ。

編集委員一同

お問い合わせ、お申し込みは農業委員会へ  
☎ 53-8440 FAX 52-7765